

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 英語文化コミュニケーション学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

英語文化コミュニケーション学科は、学科の用意する様々な授業での学習・研究の経験を積み重ねた結果として、卒業時に次のような三種類の力を身につけていることを期待します。

1. 過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会について、的確な理解と判断をする力。そのために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力。
2. 物事を筋道立てて説明したり、場や状況に応じて有効で効果的な英語コミュニケーションに必要な発信力と表現力。そのために必要な批判的思考力と豊かな想像力。
3. 多様な人や社会がつながってグローバル化する世界の一員として、積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力。

英語文化コミュニケーション学科の卒業生には、生涯を通じて、どのような立場や状況に置かれても、必要に応じて上記三種類の能力を発揮できる、次のような働き手となることを期待します。

1. 普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ね、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人。
2. 様々な媒体を柔軟に活用して積極的かつ創造的に発信や表現のできる人。
3. 計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に人や社会に働きかけられる人。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 英語文化コミュニケーション学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英語文化コミュニケーション学科は、ディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力を身に着けるために、英語を軸として相互に有機的に結びつき、支えあう研究推進母体として、「土台」「三つの柱」「屋根」という「家」の構造になぞらえた分野系列と年次ごとのカリキュラム体系を示す時系列の二つの視点から以下のようにカリキュラムを編成しています。

また、英語による授業を多数用意して、学生が日常的に英語を使う機会をできるだけ多く持てるようにしています。

(分野系列)

「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究の分野が家を支える柱として「過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会」という幅広い領域を研究対象にしなが、学生一人一人の「英語の世界」の探求を後押しする科目を用意しています。

土台となる「英語コミュニケーション」の系列では「読む・書く・話す・聴く」という英語の運用能力をトータルに訓練し、あわせてオンラインツール・デジタル媒体を学習・研究に活用する技術も習得します。

「世界の多様な文化」の系列では、英語が実際に運用される様々な具体的「世界」を取りあげて、上記三つの研究に直接的・間接的に役立つ英語文化の多様な広がりや厚みを生きた体験として理解します。

(時系列)

年次ごとに、段階的に研究分野の知識や研究能力を積み重ね、深めていけるよう、授業科目を編成しています。

2年次では本学科で学ぶ学問領域の入門、概論等の導入コースを学びます。ディプロマ・ポリシーで掲げる三種類の能力の基礎を学ぶ「英語基礎研究」や、研究分野の理解に必要な英語基礎力を「Academic Reading」「Academic Writing」で身につけます。

3-4年次にはそれぞれの学生が所属するゼミの学習・研究で、英語を自由に駆使しながら、経験・体験をとおして論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を養います。2年次で培った英語の基礎運用能力が段階的に積み重ねていけるよう、3年次必修の「英作文」でさらに高度な論文構成力を身に着け、4年次には、自分の選んだテーマについて主体的・計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめます。

そのほか、ゼミの学習・研究以外に、多数用意された自由選択科目や特講類の授業で三つの研究分野や多様な世界の文化について知見を広げ、英語力の向上を目指します。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

3. 英語文化コミュニケーション学科の進学生・編入学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

英語文化コミュニケーション学科に進学・編入学する学生は、卒業時までには学科のディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力や姿勢を身に着けることが目標になります。そのため、本学科に進学・編入学を希望する学生には次のような能力や資質が必要と考えます。

1. 英語の4技能についての「基礎力」をしっかりと身につけ、英語による卒業論文執筆に求められる論理的思考力・批評力・創造力を養うべく、授業だけでなく日頃の生活においても英語の運用能力を高めようという前向きな姿勢を持っていること。
2. 「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディアと社会」という三つの専門的な研究分野を体系的かつ体験的に学ぶ上で大切な、読書、創作や社会貢献などの「経験の積み重ね」をしてきていること。また、自分の興味・関心に応じて、その場限りに終わらない「経験の積み重ね」や「知識の蓄積」を3年間じっくりしていこうという姿勢があること。
3. 積極的に新しい世界を見よう、つながろう、開こうとする「とらわれのない姿勢」と「前向きなチャレンジ精神」をもっていること。
4. グローバル社会における多文化共生や社会の多様性とインクルージョンの重要性を理解し、自らもその一員として積極的に行動しようとする意欲をもっていること。